

郷土掇津 いにしえ通信

第51号 平成14年7月1日

発行 摂津市教育委員会 生涯学習課生涯学習課

〒566-8555 摂津市三島一丁目1-1

TEL (06) 6383-1111 TEL (0726) 38-0007

ホームページアドレス <http://www.city.selfan.asaka.jp/>



第4回
遊船(三十石船)3

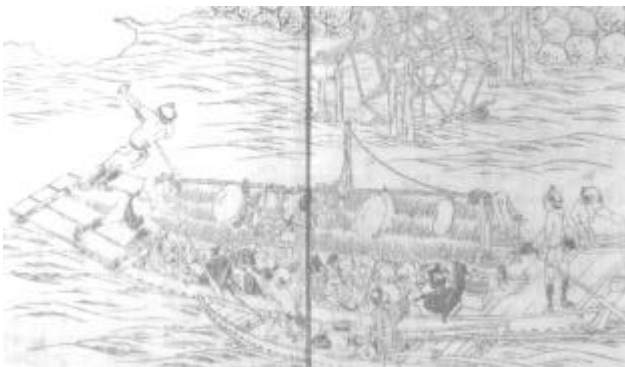


三十石船が有名になった理由

三十石船は多くの文人墨客に愛されました。俳人では、蕪村、漢詩では藤井竹外が特に著名で、二人とも淀川をよんだ作品が多く残されています。十返舎一九「東海道膝栗毛」、井原西鶴「好色一代男」、上田秋成「胆大小心録」などをはじめ、広重の「都名所之内淀川」図、暁鐘成「淀川兩岸一覽」の挿し絵、丸山応挙の「淀川兩岸絵」図など、本や絵で多彩に描写されて、流布されていたことです。また、浪曲「森の石松三十石船」では、石松が次郎長親分の代参で金毘羅まいりの途中、三十石船の中で「呑みねエ、喰いねエ、寿司喰いねエ、江戸っ子だってね」の話は有名でよく映画になっています。

京から西国への旅は、三十石船で淀川をくだって、大坂から海路に行くのが便利で楽だったので、石松も三十石船を利用したのでしょう。京阪二都をつないだ快速客船で新幹線のような存在で、「早のぼり三十石」「早船三十石」ともいわれて、当時の歌舞伎芝居のセリフでも「早く行け」というのを「三十石で行け」としゃれたほどでした。

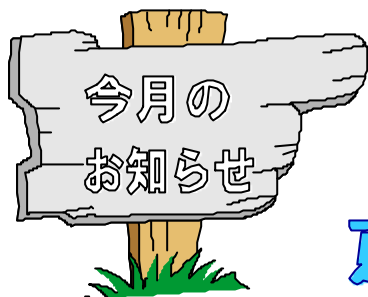
くらわんか舟(茶舟)の売り子が「喰らわんか」「喰らえ」と口きたなく三十石の客に声をかけたのは、古代から悪霊追放のために悪態をつく呪術の伝承があって、旅の安全や無病をもたらすものとして、客はよろこんだほどのものでした。上方落語の「野崎参り」で岸をゆく人と船の人の、ののしり合いなどでも偲ぶことができます。



三十石船模型

「都名所図絵」巻五安永9年(1780)

いずれも展示図録「淀川をいきかう人々・大山崎町歴史資料館・1995」より



講座や展示のご案内、活動報告など多彩な文化財情報を毎月お知らせします。また、このページでは皆様の投稿を募集しています。

夏休み・体験学習のお知らせ

夏休みには小中学生を対象に市内の公民館で、体験学習講座を開催していきます。歴史の本を読んでもわからない古代人の智恵を体感できる講座です。

本年度は3講座を予定しています。各講座の応募については、毎月1日に発行されます市の広報及び市のホームページをご覧ください。

ホームページアドレス <http://www.city.zettou.osaka.jp/>

ハニワのペン立てを作ろう

- と き 7月29日(月)・8月8日(木)
 ところ 新鳥飼公民館
 対 象 小学生
 内 容 古墳時代につくられた埴輪には様々な種類があります。巫女や力士などの人物埴輪、家、盾などの形象埴輪、そして古墳のまわりにめぐらされた円筒埴輪です。今回の講座ではこの円筒埴輪をつくりペン立てにします。



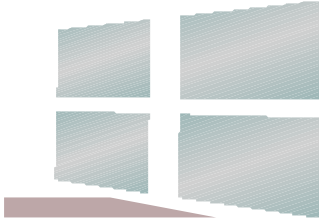
古墳・飛鳥人になろう!

- と き 8月5日(月)
 ところ 別府公民館
 対 象 小学生
 内 容 古墳・飛鳥時代の人々が着用していた胡服(こふく)や冠などの装飾品を通じて、古代の人々の衣装について学べる講座です。



古代人になるぞ~パート2~ 古代の住居と弓矢づくり

- と き 8月20日(火)・8月27日(火)
 ところ 千里丘公民館
 対 象 小中学生
 内 容 縄文時代から日本の住居として知られる竪穴式住居を復元します。竪穴式住居は地面に円形または方形の穴を掘り、中心柱と垂木を組合わせた骨組みに茅(かや)などで覆った建築方式です。今回は円形プランで中心柱1本と8本の垂木を用いた住居を復元します。またサヌカイトという石器の材料となる石を矢じりにして弓矢をつくり縄文人と狩りについて学習します。



郷土史コーナー

三宅(みやけ)の歴史

意外と身近な郷土の歴史を紹介していきます。

三宅村の範囲

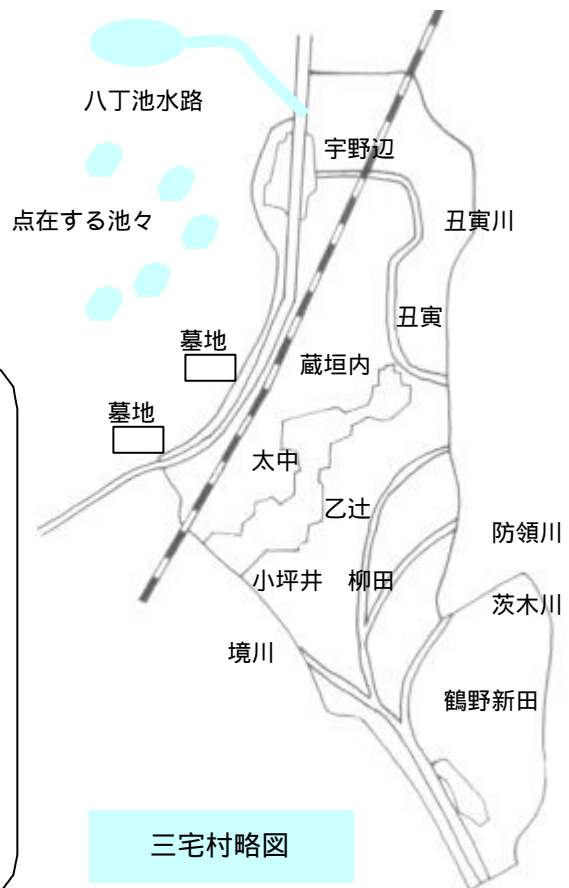
乙辻村、太中村、小坪井村、鶴野新田村（以上4村が摂津市）、丑寅村、東蔵垣内村、西蔵垣内村、宇野辺村（以上4村が茨木市）をもって、明治22年に三宅村となりました。

鶴野新田村：集落は茨木川（現在廃川）沿いの囲堤の内側に集村形態をとっています。応永6年（1399）10月10日の三善景衛公駿文書紛失状（宝鏡寺文書）に三善氏相伝の私領として「鳥養村内稲福庄井鶴野村」がみえ、鳥養牧に含まれていたとも考えられます。鶴野新田は文録年間（1592～1596）に開かれたと伝えられていますが（大阪府全志）、前記鶴野村とのつながりは不明です。鶴野新田は明治15年に鶴野村と改称しました。

乙辻村・太中村・小坪井村：村の中央を茨木方面への道が通り、この道に沿って東西両蔵垣内村・乙辻村・太中村・小坪井村と集落を連ねています。耕地もこれらの諸村、ことに太中村・小坪井村と複雑に入り組んでいます。郷内諸村のなかでもこの三カ村は相互に密接な関係をもっていました。墓所は三カ村立会で山田村（現吹田市）内にあります。用水は、浅川からの引水に加えて八丁池（現茨木市）などの溜池を利用していました。



「摂津市史」より 担当（茗荷）



三宅の変遷

府 県：江戸時代（幕領：高槻藩預所）

明治2年（高槻藩）

明治3年12月24日（兵庫県）

明治4年8月（兵庫県第38区）

明治4年11月20日（大阪府）

市町村：明治22年8カ村が三宅村

昭和32年3月茨木市に編入

同年7月小坪井・鶴野は三島町に編入

昭和35年乙辻・太中は三島町に編入

三宅村略図

第16回

埋もれた
摂津市の歴史

発掘調査で明らかになっていく摂津市の埋もれた歴史をシリーズで紹介していきます。

平成9年度

千里丘2丁目試掘調査

はじめに この時の試掘調査では、大きく6層に分けられる堆積が確認されました。いずれの堆積からも明確な遺構は見つかりませんでした。現状地盤より70cm下のレベルから瓦器・土師器などの土器が少量検出されました。いずれも碎片で時代の特定は困難な状況でしたが、おおまかに中世の時代のもと考えられます。土器が散在し、柱穴などの遺構が見つからない状況から中世の耕作土が想定される堆積でした。

この中世の耕作土の下には、淡青色をベースにした砂層が見つかり河川氾濫が想定される堆積でした。現在この地には河川は流れていませんが、昔はこの地に何らかの河川の影響があったようです。

打製石器・石鏃の検出状況 前述の中世の耕作土内で下層の河川氾濫堆積にのるかたちで打製の石鏃（せきぞく）が検出されました。石器そのものは弥生時代の中期に属します。しかし、中世の土器と同じ層から出土するという状況から中世の耕地化の中でまぎれこんだ可能性があります。

また、これとは別に河川氾濫の直上ということから、上流から流されてきた可能性を残します。現在、摂津市内では弥生時代の集落跡は見つかっていません。しかし、この弥生時代の石器は表面のローリング（摩滅）が少なく比較的近くに弥生時代の集落があった可能性を残します。長さ約3cm、重さ約3グラムの小さな石ですが、その秘めたる可能性に期待がふくらみます。次号ではこの打製石器・石鏃の作られた時代や技法などについて説明します。

担当（伊部）



打製石器検出状況
上層が中世の耕作土・下層が河川氾濫堆積



打製石器の石鏃